

## 1.はじめに —印旛沼学習で環境教育を—

印旛沼は、工業・農業・生活用水の水源地として、また水産漁場や自然豊かな憩いの場所として、県民にとって大切な水資源です。印旛沼流域は北総台地にあり、土地の大部分は農地（畜産、森林を含む）と市街地です。つまり、印旛沼の水源地に人が暮らしているのです。印旛沼は日本の近代化とともに変貌し、都市化による流域人口の増加や生活様式の変化、干拓の結果、水面消失による浄化能力の減少により水質が悪化するなど、様々な問題が顕在化しています。

千葉県は印旛沼流域水循環健全化緊急行動計画を平成 16 年 2 月にとりまとめ（長期計画である印旛沼流域水循環健全化計画が平成 22 年 1 月に策定されています。）、恵み豊かな沼の再生のために、順応的な取組“みためし行動”の一環として、平成 17 年度から環境学習に取り組んでいます。このねらいは

- ・ 子どもたちが印旛沼とふれあい、印旛沼への認識を深め、印旛沼について自ら考える契機となるとともに、子どもを通じて親や地域住民の水環境保全に対する意識啓発を図る。
- ・ 印旛沼をテーマとした環境学習を進める仕組みを作り、環境学習にはじまる意識啓発を流域全体へ広げる契機とする。

とされていますが、本書は問題解決型の環境教育を目指します。印旛沼流域では昔から人は印旛沼の恵みを受けながらも、水害という自然の脅威と闘い、印旛沼と深くかかわりあって暮らしてきました。印旛沼流域に暮らす人々にとっては、自分たちが暮らす地域だからこそ、印旛沼を学ぶことによって

- ◆ 人と自然とのかかわり、また人と人とのかかわりを学び、
- ◆ 人の責任を認識し、社会の一員として責任ある行動をとり、よりよく生きる。

ためのリアルな学びを獲得することができると考えています。

本書は、環境学習実践モデル校（表 1.1）における印旛沼学習の実践から、印旛沼流域の学校の教師を対象に、出前講師の立場から、印旛沼を教材にした環境教育の推進のための参考資料として作成したものです。

表 1.1 環境学習実践モデル校

| 年度           |                                |
|--------------|--------------------------------|
| 平成 17, 18 年度 | 佐倉市立王子台小学校・成田市立公津小学校・印旛村立六合小学校 |
| 平成 19 年度     | 佐倉市立志津小学校・佐倉市立千代田小学校・印旛村立宗像小学校 |
| 平成 20 年度     | 佐倉市立印南小学校・印旛村立宗像小学校・佐倉市立井野中学校  |

)